

市民建産常任委員会報告書

令和6年9月26日
委員長 中野 敦史

市民建産常任委員会の所管事務調査事項について、調査の概要を報告いたします。調査に際し、令和6年8月28日に関係部課長等の出席を求め委員会を開催いたしました。

市民部 環境課

環境課長から、海津木苑で発生した処理設備の破損について報告がありました。

8月14日6時過ぎに夜間休日委託業者職員から汚水漏れの連絡を受け、7時45分に海津木苑長と係長で現地確認を行った。2台あるIZ循環ポンプのうち、停止中であったNo.2ポンプから、内部の洗浄水が漏れていることを確認した。人的被害等はなく、破損ポンプ復旧までの間、1台での運転で処理に影響はないことを確認した。

対応については、同日、施設建設の施工業者による現地確認を行い、施設の運転停止は不要との見解を受け、協議の上、そのまま継続運転することとした。

施工業者からは、IZ循環ポンプのケーシング内に溜めていた洗浄水の残汚泥が発酵し、ガスが発生したことによる内圧の影響で破損したと推測されるとの見解を受けている。8月19日から21日にかけて、再度施工業者が来苑し、現地確認調査を行った。後日、IZ循環ポンプの製造メーカーが来苑予定であり、その調査結果を受けて、設備破損の要因や今後の設備改修の対応等について判断していきたいと考えているとのこと。

委員から、結果的に事故による人的被害がなかったことは良かったと思う。製造メーカーにおいて、これまでに同様の事例発生は確認されているかとの問いに、過去事例として、数件あるというとの回答を得ているとのこと。

また、調査継続中とのことだが、今回破損した箇所に限らず、現在稼働しているところ、稼働してないところも含めた全体的な調査を継続しているのか。しているのであれば、その調査結果を報告することは考えているかとの問いに、施工業者が同じであるので、設備の問題、施設全体について確認していきたいと考えている。結果については、所管事務調査等において報告したいと考えているとのこと。

また、現在、稼働している残りの1基も破損してしまった場合、この高負荷脱窒素処理設備による汚泥や汚物の処理ができなくなることも考えられるが、その場合の対応はとの問いに、IZ循環ポンプは、運転時はガスが充満することがない構造になっている。今回の故障は停止中のポンプで発生しており、運転中のポンプで同様の故障が発生することは考えにくいとのこと。

また、徹底的な原因追究と責任所在を明確化し、今後に備えるべきではとの問いに、今後の調査結果を受け、責任の所在も含め再度確認し、今後の運転管理を徹底していくとのこと。